

～超高齢化社会の地域づくりに向けて～

**地域包括ケアシステム推進をリードする大学・自治体・シンクタンクによる
「自治体職員向け次世代リーダー育成プログラム」を開講**

藤田医科大学（愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98 学長：湯澤由紀夫）と株式会社NTTデータ経営研究所(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：柳 圭一郎、以下 NTTデータ経営研究所)は、地域包括ケアシステムの推進に向けた「第3回 実践型地域づくり人材育成プログラム」を、2021年9月～2022年2月の期間で開催いたします。

本プログラムは、藤田医科大学・NTTデータ経営研究所が、2019年に市町村職員の課題解決力の養成を目的に「実践型地域づくり人材育成プログラム」として開始したもので、これまでに36市町村への支援を行いました。3回目となる今回は、参加要望のあった都道府県職員の参加も受け入れ、チーム参加制とするなど、プログラムの内容を強化して実施いたします。

【背景】

超高齢化社会に向け、地域で高齢者を支える地域包括ケアシステムの構築が求められています。一方で、地域では、増え続ける介護給付費の抑制、高齢者の移動の課題、介護人材の確保など多くの問題が発生しており、市町村職員が課題解決に向けたリーダーシップを発揮することがより一層求められています。しかしながら、これまで地域包括ケア分野において、市町村職員の課題解決能力を養成するための機会が十分に提供されていないのが実情です。そこで、藤田医科大学・NTTデータ経営研究所は、2019年度に市町村職員の課題解決力の養成を目的とした「実践型地域づくり人材育成プログラム」を開始しました。本プログラムはこれまで2回実施し、36市町村の職員が参加しています。参加者からは「期待を上回る内容だった」「答えを教わるのではなく、解き方・学び方を教わることで自分のまちの答えにたどり着くという稀有なプログラムである」などの反響があり、地域づくりにおける課題解決をリードする人材育成のプログラムとして、自治体などから注目されています。

今年度は、過去2回の実績から参加要望があった都道府県職員の参加を受け入れるとともに、庁内外関係者とのチーム参加制とするなど、より実効性の高い成果の創出を目指したプログラムを実施いたします。

【プログラムの特長】

- **日本の地域包括ケアシステム構築の推進をリードする「大学」「自治体」「シンクタンク」の協働により自治体職員のリーダー育成に取り組む**
 - 大学……藤田医科大学は、愛知県豊明市にて地域包括ケアの先進的取り組み「藤田・豊明モデル」を推進。2020年に日本で唯一の自治体向け教育支援施設「地域包括ケア人材教育支援センター」を開設。
 - 自治体……豊明市は、地域包括ケアの取り組み「豊明モデル」を推進しており、昨年度の視察受け入れ件数が全国自治体で1位（日経BP総合研究所調べ）。
 - シンクタンク……地域包括ケアに関する調査研究を多く実施するNTTデータ経営研究所が企画・運営、地域包括ケアや地方自治に精通する大学教授・研究所職員が講師として参加。
- **過去2年間で受講した市町村職員の90%以上が「期待を上回った」と回答。本プログラム受講後、民間企業との連携に至った事例や市の新たな事業の開始に至った事例も。**
- **本プログラムは、講義・ワークショップなど、すべてオンライン（Zoom）で実施できる環境を整備し、日本全国の自治体職員が参加可能。**

【第3回 実践型地域づくり人材育成プログラムについて】

- **実施期間**
2021年9月～2022年2月の6ヵ月間
- **参加予定の自治体（15市町村および3県）**
 - 市町村：【青森県】三戸町、田子町、【茨城県】つくばみらい市、【神奈川県】大井町、鎌倉市【長野県】須坂市、【石川県】野々市市、【岐阜県】大垣市、【三重県】菰野町、【滋賀県】草津市、【大阪府】能勢町、泉大津市、【奈良県】黒滝村、【福岡県】岡垣町、【宮崎県】新富町
 - 都道府県：青森県、茨城県、神奈川県
- **実施主体**
藤田医科大学、NTTデータ経営研究所
- **協力機関**
豊明市

● 実施内容・スケジュール

日程	プログラム内容
9月10日(金) 13:00-16:00 9月16日(木) 9:30-12:00 9月17日(金) 13:00-16:30	第1回 市町村職員の役割を考える 講義 ・基礎自治体の仕事の面白さとは ワーク ・わがまちの課題と取り組みたいことの共有 講義 ・地域課題って何だろう？そもそも課題とは？ ワーク ・次回に向けたアクションを考えてみよう
10月11日(月) 午後 10月13日(水) 午前 10月14日(木) 午前	第2回 わがまちの課題とは ワーク ・行政の困りごとは地域の課題？課題を見直してみよう ワーク ・高齢者の暮らしをリアルに想像してみよう ケース ・～地域ケア会議の視察～ ワーク ・地域の課題を見極めるためのアクションを考えてみよう
11月15日(月) 午後 11月17日(水) 午後 11月18日(木) 午後	第3回 わがまちの課題を見極める 講義 ・課題解決に向けた道筋の立て方を学ぼう ワーク ・道筋に沿って、これまでの検討を整理してみよう ケース ・現場を良く知る実践者は、どう考え、行動しているの？ ワーク ・～現場実践者とのトークセッション～ ワーク ・課題解決のために、まず取り組むべきことを考えよう
12月15日(水) 午後 12月17日(金) 午後	第4回 課題解決までの道筋を立てる ワーク ・解決すべき課題に優先順位を付けてみよう ワーク ・高齢者や地域の目指す姿に向けた作戦を立てよう
2022年 2月2日(水) 午後	第5回 成果発表 発表 ・これまでの検討プロセスと、これから取り組むことの発表 ワーク ・解決策の実践に向けて、さらに具体的なステップを考えよう

各回毎にフィールドワークを行います

- 各回の終了後～次回までの約1か月間、チーム（または課・係）でフィールドワークを行いながら、検討を深めていただきます。

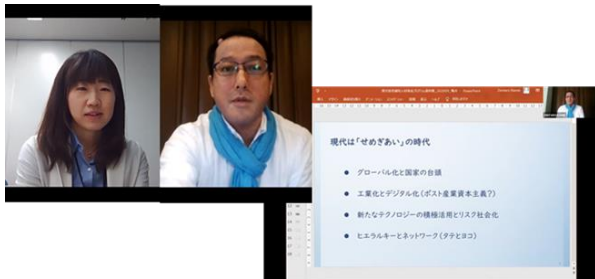


- フィールドワークの内容は、自由に検討し、実践することが可能です。

過去の受講者の実践例

- ✓ 包括へ詳細な相談内容のヒアリング
- ✓ 生活支援コーディネーターと眠っている地域資源の情報交換
- ✓ 通いの場を利用する住民に、利用目的や感想をヒアリング
- ✓ 申請理由や相談内容を整理し、地域ケア会議などで共有 等

【昨年度の様子】



過程その②仮説が正しいかどうか検証

調べたこと・分かったこと・気づき

介護保険の認定状況などのデータを見直す

1 回目

- 医師からのすすめで申請しているケースが多い中、実際に要支援認定者のうちサービスを利用しているは約6割。
- 高齢者独居世帯数が年々増加。その本人や家族からの相談・申請が多い。
- 要支援者のうち、新規認定後、約4割は重度化している。
- インフォーマルサービスの事例が少ない(地域ケア会議の事例から)

2 回目

公的なサービスで対応しようとする相談対応サービス利用すると、その生活が本人の暮らしへ。(今の暮らしから介護保険サービスありきの暮らしへ)

失敗からの気づき

そもそも収集する情報範囲が狭い
課の中で分かる情報は一部ではない

